



2026年6月26日

各 位

会 社 名 岡本硝子株式会社
代表者名 代表取締役会長兼 CEO 岡本 毅
(コード番号 7746 東証スタンダード)
問合せ先 財務経理部長 風間 卓
電 話 04-7137-3111

(開示事項の経過) 中期経営計画における設備投資計画の一部前倒しに関するお知らせ

当社は、2026年5月15日公表「中期経営計画策定に関するお知らせ」で公表した新中期経営計画 GROWTH28 (2027年3月期～2029年3月期)について、本日開催の取締役会で設備投資計画の一部前倒しを決議いたしましたのでお知らせいたします。

なお、設備投資総額に変更はなく、また、2029年3月期に実施予定の生産能力増強投資を2028年3月期に前倒しするものであるため、2027年3月期当社連結業績への影響は軽微です。

記

1. GROWTH28 (2027年3月期～2029年3月期)期間中の設備投資計画について

(1) 設備投資総額及びこのうちガラス偏光子製造設備の金額について

設備投資総額	3,100百万円 (変更なし。)
このうち偏光子製造装置	300百万円 (変更なし。)

(2) ガラス偏光子製造設備の実施時期について

フェーズ2	200百万円	2027年3月期実施	(変更なし。)
フェーズ3	100百万円	2028年3月期実施	(変更前は、2029年3月期実施)

2. 設備投資計画の一部前倒しの理由について

生成AIの発展に伴うデータセンター投資の活発化(年平均成長率27.5%※1)により、AIデータセンター向け光通信モジュールである光アイソレータ用途のガラス偏光子は、需要が急拡大しており、フェーズ3の設備投資100百万円を約1年前倒しで実施することといたしました。

3. 今後の予定

当社顧客へのヒヤリング等からも、当分の間、この急増が継続すると推定されるため、上記に加え、更なる設備投資・生産性の向上により、2029年3月期で現行の10倍、2030年3月期で現行の13倍の生産能力拡大に努めてまいります。

なお、2026年5月15日公表の中期経営計画に係る「ガラス偏光子」の最新情報を補足資料として添付いたします。

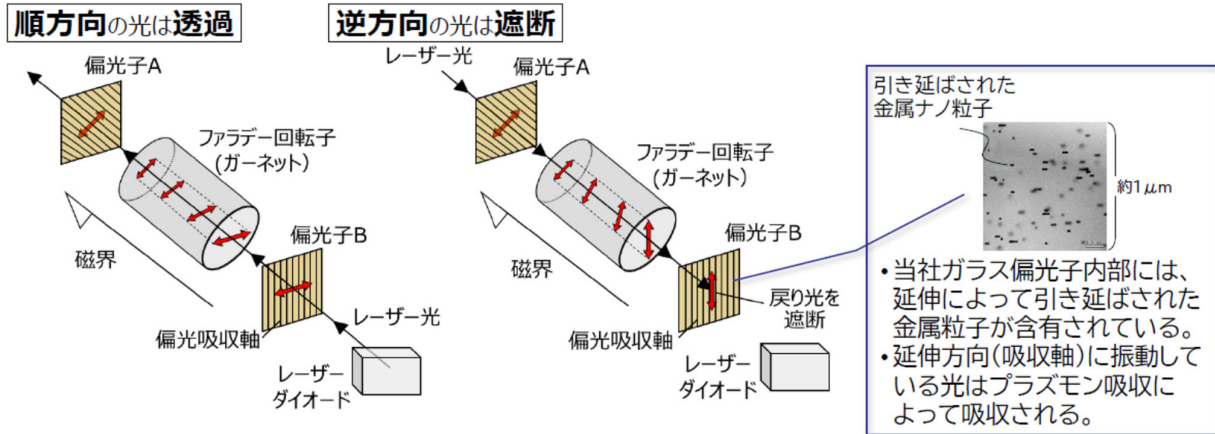
※1 : (出所) Markets & Markets

以上

光通信用光アイソレータに必須な部品であるガラス偏光子で機会を掴み取る

ガラス偏光子

- レーザーに対し有機フィルム製偏光子では出来ない高耐熱・高耐久なガラス製無機光学素子
- 光アイソレータに欠かせないデバイス



生成AIの発展に伴うデータセンター投資の活発化(年平均成長率27.5%(*1))により、偏光子の需要は増大
AIデータセンター向け光通信モジュール用途のガラス偏光子は需要が急拡大している

(*1):(出所)Markets & Markets

ガラス偏光子～光の“一気通貫” (2/2)

顧客開拓状況

- 光アイソレータメーカー主要5社に対してアプローチは完了し、そのうち4社は量産開始。
シェアTOPのC社に対して評価サンプルを提出し、長期環境試験を実施中。(～26年9月)

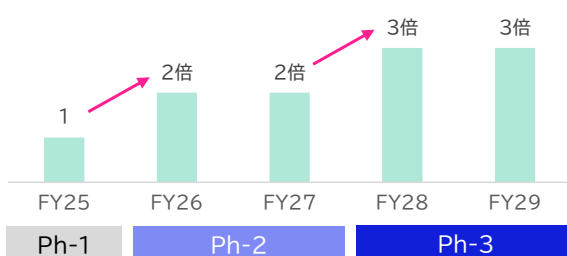
	アイソレータメーカー				
	A社	S社	G社	O社	C社
状況	量産中	量産中	量産中	量産中	評価中

設備投資の更なる前倒し

中計公表時点(5月15日)

ガラス偏光子生産設備能力

千葉県柏市の本社工場でガラス偏光子の生産能力を拡大
量産稼働: Ph-2 FY26 後半
Ph-3 FY29



Ph-3前倒しを取締役会で決議(6月26日)

ガラス偏光子生産設備能力

千葉県柏市の本社工場でガラス偏光子の生産能力を拡大
量産稼働: Ph-2 FY26 後半
Ph-3 FY27 前半
Ph-4 FY28 後半

